

# 平成31年度 学校経営



- 1 学校経営構想
- 2 学校運営機構・校務分掌組織図
- 3 校務分掌一覧

平成31年4月

掛川市立土方小学校

## 0 国、県、市、学園の要請

### (1) 学習指導要領 (2020 年度全面実施。2018~19 年度移行期間 (小学校))

「何ができるようになるか」=新しい時代に必要となる資質・能力の育成

I : 生きて働く知識・技能の習得

II : 未来の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成

III : 学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養

「何を学ぶか」

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた教科等 (新設や目標・内容の見直し。学習内容の削減は行わない)

「どのように学ぶか」

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習過程の改善

### (2) 静岡県「有徳の人」づくり宣言

有徳の人とは、

①自らの資質・能力を伸長し、個人として自立した人

②多様な生き方や価値観を認め、人との関わり合いを大切にする人

③社会の一員として、よりよい社会づくりに参画し、行動する人

その実現に向け、

一、「文・武・芸」三道の<sup>ていりつ</sup>鼎立を実現します。

一、生涯にわたって自己を高める学びの場を提供し、多様な人材を生む教育環境を実現します。

一、地域ぐるみ、社会総がかりの教育を実現します。

### (3) 教育大綱かけがわ

子どもたちの目標となるような人物像として5つの目指す姿を掲げる。

①変化の激しい社会で生き抜く力を備えているひと

②多様な人々を結び、地域でもグローバルにも活躍できるひと

③高い目標をもち、新たな価値の創造にチャレンジするひと

④自律する心を持ち、他者の考えや痛みに共感できるひと

⑤豊かな心や健やかな体に高めていくひと

### (4) 人づくり構想かけがわ

基本目標「夢とこころざしを持ち、ともに学び、豊かな未来を創造するひと」

## 学校教育の方針

「夢に向かって、自ら考え自ら判断し、心豊かにたくましく生きる子どもの育成」

- ① 「確かな学力」の向上を目指す学校
- ② 豊かな感性、健やかな心身を育む学校
- ③ 家庭や地域と連携した開かれた学校
- ④ 信頼される学校
- ⑤ 安全・安心な教育環境の整備
- ⑥ 安全・安心な学校給食の推進

### (5) 城東学園（城東中学校区学園化構想）研究

願う子ども像「報徳の心をうけつぎ、城東が大好きな子ども」

- ① 不撓不屈の心（勤勉の心）
- ② 挨拶等の礼儀（至誠の心）
- ③ 節度ある心（分度の心）
- ④ 郷土を愛する心（推譲の心）

掛川市中学校区学園化構想第2ステージ 「小中一貫教育」

- ① 小中一貫教育研究における目指す子ども像

「城東を愛し、未来をたくましく生き抜く子ども」

ア 城東を愛し：

城東地区の人・もの・ことの価値を知り魅力を感じることによって誇りと愛着をもち、城東地区をかけがえのない我が郷土として大切にし、城東のために活躍する。

イ 未来をたくましく生き抜く：

夢や目標に向かって他と豊かにコミュニケーションをとりながら、課題を創造的に解決していく自分を磨き、未来を力強く切り拓く。

- ② 目指す子ども像に迫るために城東学園の子どもたちに必要な力

ア 自己肯定感や城東地区に対する誇りと愛着

イ 自分や城東地区の人・もの・ことの価値や課題を理解する知性

ウ 自分や城東地区の人・もの・ことの価値や課題を実感する感性

エ 自分や城東地区をよりよくしようとする意欲・能力

- ③ 重点となる必要な力とその育成の研究

「コミュニケーション力」と位置づけ、9年間を貫くカリキュラムの作成と実践を通して研究する。

# 平成31年度 掛川市立土方小学校 学校経営構想図 (グランドデザイン)



【平成31年度 学校経営構想図 (グランドデザイン)】

## 1 土方小学校 経営理念

### 3A+2K（安心、安全、明るさ + 改善、共有）

- A 「安心」して学べる学級集団、信頼される教職員集団の育成
- A 「安全」な学校生活環境の整備
- A 「明るく」、達成感のある授業・教育活動の実施
- K 未来に生きる児童を計画的・協働的に育む教育への「改善」
- K 保護者・地域・学園で児童の”今と未来“の「共有」

## 2 学校経営目標

### (1) 安全・安心の学校運営

学校保健・防災・防犯等、確実な管理体制による学校事故0件

### (2) 魅力と信頼の教職員育成

人間尊重・専門性・チーム力の向上を感じる教職員 100%

### (3) 学びの仕組み構築

土方小型学びの仕組み（教育課程＋放課後学習）を構築2年計画で100%。

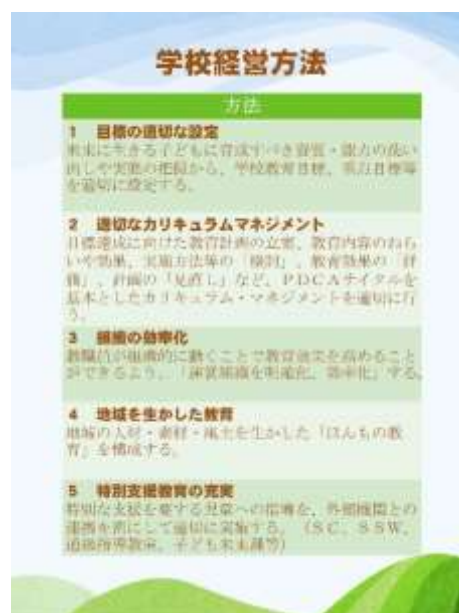
### (4) 小中一貫・連携研究推進

城東学園・子ども育成支援協議会との“強い絆”を感じる100%



## 3 学校経営方法

- (1) 未来に生きる児童に育成すべき資質・能力の洗い出しや実態の把握から、学校教育目標、重点目標を適切に設定する。
- (2) 目標達成に向けた教育計画の立案、教育内容のねらいや効果、実施方法等の「検討」、教育効果の「評価」、計画の「見直し」など、PDCAサイクルを基本としたカリキュラム・マネジメントを適切に行う。
- (3) 教職員が組織的に動くことで教育効果を高めることができるよう、「運営組織を明確化、効率



- 化」する。延いては職員の働き方改革に資するように取り組む。
- (4) 地域の人材・素材・風土を生かした「ほんもの教育」を構成する。
- (5) 特別支援を要する児童への指導を、外部機関との連携を密にして適切に実施する。  
(SC、SSW、通級指導教室、児童未来課等)

#### 4 学校教育目標

##### 城東を愛し、未来をたくましく生き抜く子ども

<設定理由>

「たくましさ」は、未来に生きる児童  
に対して、学校のみならず、地域・保

【学校教育目標（城東学園小・中学校共通）】  
城東を愛し、未来をたくましく生き抜く子ども

護者の願う力の最たるものとなっている。小中一貫教育の研究を進める中で4小が目標を共有し、教育活動を行うことで効果を上げていくことの重要性を確認した。

目標に込める具体的な子ども像は以下のとおりである。(0 (5) ① 小中一貫教育研究における目指す子ども像 より再掲)

ア 城東を愛し：

城東地区の人・もの・ことの価値を知り魅力を感じることによって誇りと愛着をもち、城東地区をかけがえのない我が郷土として大切にし、城東のために活躍する。

イ 未来をたくましく生き抜く：

夢や目標に向かって他と豊かにコミュニケーションをとりながら、課題を創造的に解決していく自分を磨き、未来を力強く切り拓く。

#### 5 目指す児童像

- (1) 心身ともに元気な子【体育面】(げんき)
- (2) めあてをもち勇気をもって挑戦する子【徳育面】(ゆうき)
- (3) 共に学び本気になって学び続ける子【知育面】(ほんき)



<設定理由と実現への方針>

学習指導要領、県、市の教育振興基本計画及び学校教育目標を踏まえ、体・徳・知の視点から見た児童の姿として目標化した。設定に当たっては、教員、児童、保護者、地域による学校評価アンケート等を精査分析し検討を行った。

教育活動の中核をなす学級経営において具体的な方法を計画し実現に向かう。また、生徒指導部3課で打ち出す施策もこれらを目標として設定し、学級経営を支える。

## 6 重点教育目標

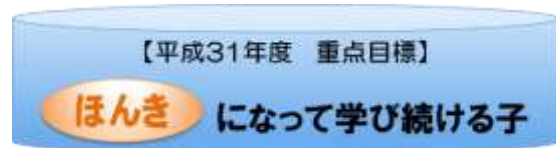
### 「ほんき」になって学び続ける子

<設定理由>

「5 目指す児童像」の実現を目指すに当たり、H29年度の児童の実態から「げんき」(体)の分野はおおむね目標を達成できた。H30年度は、学校教育目標に向かう第2段階として「心情面のたくましさ(徳)」を重点領域とし、「ゆうき」の涵養に焦点化した。今年度は、3年間の集大成として「げんき・ゆうき」を基盤とした「学力面でのたくましさ(知)」の部分を重点化する。

各分野の事象に対する興味・関心を高め、見聞を広め、深く追求することを通して、各分野固有の見方・考え方をはぐくむ。これを重ねて知恵と成し、たくましく生きるための力として子どもの中に蓄えていく。

実現に向けて、子どもが本気で学び続けようとする授業を中核とした学習環境の改善を進める。学習改善のポイントは、【謎を解く(=問題解決型学習の研究と日常的な実践)】【学び合う(=協調的な学習、対話のある学習)】【学びがつながる(家庭学習や自主的な学習への発展)】の3点とする。(詳細は後述)



## 7 学校教育目標へのアプローチ

### (1) 最優先は支持的風土の学級経営

人間尊重と認め合い、補い合い、正し合いの支持的風土の涵養によって個は進歩し、自己肯定感を高めることができる。そのような学級を経営することがすべての基盤となる。各学級担任は目指す児童像の実現に向けて、児童の発達段階や特性、生育環境等を総合的に理解し、個に応じたきめ細やかな学級経営を行うよう企画・立案・実践・評価のPDCAサイクルを重視したマネジメントを行う。

全学年単学級であるため、低学年(1～3学年)、高学年(4～6学年)の二つの「団」を組織



する。担任同士が連携し指導・管理のぶれを防ぐ効果が期待できる。

(2) 学級経営を支える生徒指導部のリーダーシップ

学校運営組織を生かし、生徒指導部3課の指導方針や企画で、目指す学級像・児童像の具現を支援する。

また、生徒指導の基本姿勢を次の5点とし、全職員足並みをそろえて教育に当たる。

い 児童と「一対一の人間同士」として接することを基盤とする。

な 観察と分析の「なんで?」を問い、原因と対策を考える。

り 児童の心理、生育環境、発達段階、特性を理解する。

み 行動を内省させ、見方・考え方を育み、進歩を認める。

そ 指導方法・支援方法をチームで相談して共通理解を基に進める。



(3) 学校教育の中核は授業の充実

研修部を中心に、具体的な授業像、指導観、指導方法、教育技術を相互に研鑽し合い、教科・領域のねらいの達成と定着に反映させる。これらをとおして、体・徳・知でめざす児童像の実現を図る。また、まなび課の施策は研修部と連動し、授業の充実を支える。(詳細は「校内研修」の章で記載)



(4) 自治的・主体的な活躍を促す特別活動の活性化

学級集団や学校集団を豊かで文化的な集団に高めていく活動に積極的に参画し、そのノウハウを学ばせるとともに、集団への貢献の喜びや満足感を体得させることをとおして、自己肯定感を涵養する。また、たてわりやペアの組織を十分に生かす。

(5) 教育環境整備と連携団体との調和のとれた活動の推進

管理局主導によるハード面 (予算・備品・施設) の管理・整備と、校外組織 (子ど



も育成支援協議会、自治会等）との連携のとれた教育活動を実現する。また、学校運営協議会設置の元年となるため、より一層地域との連携を密にして学校運営を行う。

## 8 カリキュラム・マネジメントの方法

### (1) 教育の時間的計画（年間計画、週計画、日課）の改善

効率的なタイム・マネジメントを前提とする。年間の授業時数、週時間割、日課の大幅な見直しにより、新学習指導要領の求める授業を確実に実施する。加えて、特別活動の充実により自治的な風土をさらに涵養するように工夫する。

タイム・マネジメントは、職員の働き方改革の基盤ともなる。授業準備等の放課後時間の確保、会議内容・進行方法等の工夫、ICTの業務活用のさらなる推進、出退勤時刻管理等に取り組む。

### (2) 教育活動の見直しと高速PDCAサイクルの常態化

教育活動の内容のすべてをゼロベース思考で見直し、各内容を「土方プラン31」のプランシートに整理して記載する。ねらいと方法の整合・評価方法の設定（Plan）、評価（Check）と改善作業（Action）を施す。各事業の実施直後に評価（Check）を行い、年度内に次年度のプランシートを作成（Action）する。

職員の異動に対応し、「持続可能な教育」を行うための基として重要視する。なお、PDCAの各段階において情報収集作業にはミライムやスズキ校務をはじめとするICTのソフトやハードを十分活用し、効率化を図り、負担軽減を促進するよう十分配慮する。

### (3) 教育方法の構築（＝「土方小型学びプラン」の構築）

授業、家庭学習、放課後学習※の3つをかみ合わせ、児童の「学びサイクル」を強固にする。学びのサイクルを児童に定着させることで、「共に学び本気になって学び続ける子」の育成につなげる。

学習指導要領、県、市が目指す児童像を本校の児童の実態に合わせて、指導内容を具体的に設定する。その際、学力・学習状況調査の結果を分析し指導の根拠とする。効果を検証する教育評価については、客観性の向上を図る。

市指定小中一貫教育研究の最終年度となり、



2年間の研究実践を進める一方で検証を加えていく年度となる。新たな学校づくりの根拠や指針となる研究成果を残すべく取り組んでいく。また、新たな学園づくり地域検討委員会での審議や研究を保護者や地域に広め、未来に生きる児童にとって必要な教育が実施できる環境について、段階を経ながら進めていく。

※「放課後学習」の考え方

放課後学習は、土方地域コーディネータを中心とした地域ボランティアを推進役として位置付けた、教育課程外の児童の学習機会とする。

教育課程における学習内容の定着に、時間や場の設定が必要な児童を対象とした「基礎定着型学習」とするが、音楽、読書、調べ学習、リトミック、工作など、地域コーディネータのアイデアやボランティアの特長を生かした実施可能な「主体的な学び型学習」も徐々に加え、学習分野を試行しながら広げていく。

初期段階として、実施時間は水曜日 14 時 30 分から 16 時 00 分を充てる。職員は、授業準備・会議等の業務時間とし、放課後学習には原則、携わらない。

文責：掛川市立土方小学校長